

■ 待望の同窓会館本館完成

(玉高新聞第156号 昭和59年2月29日発行)

若駒寮変遷記



十月二十二日から工事が進められてきた、同窓会館本館が完成した。この本館落成を機械に、若駒寮の歴史を顧み、その真の意味を確認しよう。また、伝統ある若駒寮を高生に受け継ぐためにも、現在の問題を確実に把握し、問題解決を急がなければならない。

今、若駒寮を考える 五十

七年度のべ88クラブが利用

昨年、十月二十二日の着工以来建設が進められてきた同窓会館本館「若駒寮」が、ほぼ完成した。およそ四ヶ月にわたる工事であった。

一、二階とも三十畳の和室にトイレ付きの立派なものである。詳しくは玉高新聞八十周年記念号に見取り図があるので、それを見て欲しい。建設費用は、同窓会の一般からの寄付金で、千七百万円もかかっている。

現在、掃除用具や机などがそろっていないので、落成式までにはそろえて、式が済んだ後できる限り早く、合宿などの使用を許可したいとのことだった。今後は、食事入浴以外は同窓会館本館を使用することになりそうだ。大切に使用してもらいたい。

近年停滞ぎみだった利用も、この本館落成で、本年度は大幅に増えるのではないと思われる。昨年度の若駒寮の利用状況は、文化系クラブが二十八回、体育系クラブが六十回で計八十八回であった。利用日数は二百十六日、利用者延べ人数二千八百八十三人、宿泊延べ人数五千四百九十五人となっており、単純計算してみると、千五百人の全校生徒が、一人平均して一・九回、三・六回泊したことになる。五十三年度の利用は、一人平均二回、四泊したことになっているので、これと比べると明らかに減っている。これは、クラス合宿が中止になったことが、大きな原因と考えられる。しかし今後は、前に述べたように同窓会館本館の完成に加え、クラス合宿も再会されることから、利用が増加することは確実である。利用の増加に比例して問題が増えることがないように、合宿のときは、規則を厳守してもらいたい。全国にもまれな合宿寮だけに、玉高の誇りとして、その名をなくすようなことがないようにして欲しい。

ところで、この玉高の誇りである「若駒寮」が、その誕生から、今日、本館落成まで至った過程を知っている者が、少しでもいるだろうか。ここで、若駒寮誕生から現在に至るまでの、若駒寮の変遷をたどってみたいと思う。おおまかなことは、玉高生として、心にとめておいて欲しい。

もともと、この若駒寮は、現在の位置よりもやや南に建っていたもので、松原昭子氏所有の民家であった。「玉高七十年史」によると、当時この若駒寮は、建坪六十坪、一部二階建、十部屋の和風住宅であった。したがって、部屋数は少なくなったが、この外形は現在までほとんど変わっていない。

昭和三十二年の国民体育大会の軟式テニスが、本校で行われるようになったため、三十二年には、トラック、野球場の拡張、テニスコートの増面がなされた。このとき、拡張された土地にあった一軒の民家も購入されたのである。この民家が現在の、同窓会館別館(若駒寮)である。

購入金は、築山にあった本校の田畑を売却し、不足分は入学生からの寄付金があてられた。購入後県に「寄付採納願」を提出したのだが、認められず、そのまま同窓会の所有となった。このようにして、若駒寮は誕生したのである。最初この若駒寮の利用目的は、同窓会、育友会の会合、クラブの合宿などが予定されていたが、現実には夏季のクラブ合宿だけで、その他にはあまり利用されていなかったようだ。

その後、合宿は問題なく順調に行われ、昭和五十一年の七月から九月までに、二百六十万をかけて、大がかりな改修工事が行われた。このときの工事で、窓はサッシに変わり、浴場が整備された。「同窓会館別館」が、「若駒寮」と定められ、クラス合宿が開始されたのも、この九月からである。したがって、クラス合宿に、さまざまな問題が生じて、結局中止となるまで、およそ五年しかたっていなかったのである。今度再会されたが、もう二度と中止とならないようにして欲しい。

五十四年には、布団の入れ替えがあり、大きな浴場が設けられた。現在使用しているのはこの浴場であり、よりいっそう生活しやすくなった。

このような歴史を経て、現在に至り、同窓会館本館の落成をこのような歴史を経て、現在に至り、同窓会館本館の落成を迎えたのである。今後も、「食堂兼自習室増設」、「食器完全消毒設備購入」、「寝具消毒設備」、「焼却炉新設」など、この他にもさまざまなものが計画されている。そして、少しずつでも、ますます設備が整い、これまで以上にすばらしい合宿寮になって行くことだろう。

この若駒寮には、数多くの人々の思い出がこもっている。我々はこの伝統を守り、後輩たちに受け継いで行かなければならない。そして、若駒寮が、同窓会の方々の善意で建てられ、改善されてきたことを忘れてはならない。しかし、現在様々な問題が多く残っている。この問題を早く解決しなければ、再び合宿中止となるのは時間の問題なのである。今、早急の問題解決が必要なのである。個人が自覚を持って、現実問題に取り組んで欲しい。そして、他の高校の手本となるように、すばらしい合宿づくりをしていこうではないか。

戻る